



法話と二胡演奏会

去る10月14・16日、赤羽別院の報恩講が厳修された。当日は伊豆大島に大きな災害をもたらした台風26号が接近する荒天にも拘らず、多くの人々が参詣されました。



佐野明弘師の法話

三日間の法要には、崇敬区内外から大勢の法中が出仕し、結願日中では多くの門徒が見守る中、三浦新輪番が登壇を行っていました。

法話には、初日に第15組明水寺・鈴木聡師、二日目に石川果加賀市光園坊・佐野明弘師、三日目に第17組西岸寺・松林了師をお迎えしました。今日の報恩講では、「二胡演奏会」が行われたことが特筆されます。

本紙は、毎年二年に一度は赤羽別院へのスローガンに掲載してまいりますが、真宗門徒にとって最も大切な仏事「報恩講」は正にその時であります。本年も、坊守会・世話会をはじめ多くの方々がおみがき・お華束・お斎等の準備から後片付けにいたるまでお手伝いいただきまして、大勢の参詣者と相俟って、新輪番のもと「地域に根ざした別院」の新たな出発ともいえる報恩講となりました。

感話要旨

第9組 正覺寺門徒 杉山 巧様

な出発ともいえる報恩講となりました。宗は古い・まじない等を信じない」と教えられ、長年の大きな迷いを取り除くことができました。今後も、積極的にお寺の行事に関わり、開法に努めたいと思います。

第12組 願海寺門徒 岩瀬 敏勝様

私が18歳の時に父が亡くなりました。物知らずの私は、日柄を考えずに葬儀の日取りを決めたところ、村の長老より「今日は友引だから友を引くといけない」と言われ、急遽人形を棺に入れて送りまし。以来、友引に葬儀をし、お寺参りをする人が減って、お寺が寂しく思っています。しかし、その一方で還宮のあった伊勢神宮では、大変な賑わいを見せていると言われます。私たちが年寄り、いかにして若い世代に仏法を伝え、お寺に足を運ぶ環境づくりができるかというところが大切になってくる気がいたします。

第二回みどうコンサート 二胡で聴く真宗宗歌・恩徳讃

去る10月16日、赤羽別院では報恩講御満座法要の後、第二回みどうコンサートが開催され、大勢の聴衆が集う盛会となりました。今回は、中国の伝統的な楽器「二胡」の奏者・岡崎市にお住まいの中村ゆみこさんをお招きして、「親鸞聖人讃仰コンサート」二胡で聞く「恩徳讃」と銘された。中村さんは、演奏活動で活躍される一方で、二胡の魅力を広げようと二胡の教室をもち、大勢の人々の指導をされています。「小さい秋見つけた」をはじめ「花は咲く」など馴染み深い曲全11曲が演奏されたなかで、今回のために修得された「真宗宗歌」及び「恩徳讃」の演奏が特筆される。また、中村さんのご指導で歌詞を手話で表現してみようと、全員が起立して手を動かしながら「故郷」を歌うひと時もあった。最後は、アンコールの声に呼応して美空ひばりさんの名曲「川の流れのように」で幕を閉じたが、奏者も聴衆も終始笑顔が絶えることのない演奏会となった。



熱演! 中村ゆみこさん

本山・子ども報恩講のついで

第14組教化委員会

岡崎教区第14組では、12年前から組の強化組織の中に児童強化部門を置き、児童強化に力を入れ「花まつり」「夏の集い」「子供報恩講」を毎年実施している。2年前の宗祖親鸞聖人七百五十年前御遠忌法要では、「子ども報恩講」を実施して多くの子ども達が、親鸞聖人や真宗本廟にふれる縁に触れることができた。



御影堂前で記念撮影

本年は、11月23日に本山でお勤めされた「第一回子ども報恩講のついで」に、「寺子屋」の21名の子どもと父親16名が早朝よりバスで出発、途中で京都水族館に立ち寄り、魚族の観察と昼食の後本山に赴いた。御影堂には全国から大勢

の子ども達が集っており、賑やかな中に緊張感の溢れる様子が伺えた。法要は、子ども達の調声のもと、揃った大きな声でお勤めが行われた。その後、同朋会館に会場を移し、ゲームや人形劇等を楽しみ、おみやげを手に充実した秋の一日となった。

人間模様 その12

平成6年、いじめによって中学生だった最愛の息子さんを、自死により亡くされた、西尾市小島町在住の大河内祥晴さんをお訪ねし、いまだに無くなることのない同じような事件の背景にあるものは何か。また、その後、氏が「いじめ」と向き合い、子供達と係ってきたなかで、知らされたものは何かをお話しいただいた。



穏やかな口調で語る大河内さん

いじめにあつていて、何を、何故話してくれなかったのか、との思いが大きかったと思いますが、始めのうちは「なぜ、何故」と思っていました。事件以後、たくさんの子供と話す機会を持ったなかで、いろいろなきに気づかさせていただきました。「何故、言ってくれなかったのか」という子供の質問ではなく、「子供が話せなかった」という、こちら側に問題があったんです。家庭だけの問題ではなく、この国の社会全体に原因が

あるのです。この辺りは田舎で、私の子供の頃は、学校の成績や将来のことなど考えず、気楽な気持ちで友達と遊んでいました。「友達」というのを

肌で感じていたんです。それが今では、お金がいる世の中になったので、中学生といえども気楽にはおられない。何となく不安を感じるんです。また、今日では本当の意味での助け合いがない。昔は、物乞いが来る、私の祖母などは家にあるものをあれこれ都合したり、また、他所の田んぼの水が枯れていれば、自分の田んぼと同じように水をやり、みんな助け合っていました。そういうことを、今では自己責任としてかたづけ、互助精神が薄れている。このことが子供に大きな影響を与えていると思います。少年院をはじめ、いろいろな処でお話をされていますが、いじめだけでなく、いろいろな事件を起した子供達も多くが「あれは遊びだと思っていた」と言っているんですね。

「それ、いけないね」とか、「いじめた時、どのように思ったか」など、相手の気持ちも大切だけど、自分はどう思ったかが最も重要で、そこから痛みを感じていくんです。今日では、思っていることを口に出すことができます。正直に話すことができる場がなくなりました。私が子供の頃には、お寺の集りがあったり、親戚との集りなどがあり、子供同士で話してみると、みんな同じだということ、共鳴があったと思うんですね。今、それが少なくなると、子供が背伸びし、無理しているように思います。子供達だけでなく、社会全体で対処すべき問題として改めて痛感した次第です。

年忌法要のお食事は日本庭園のある松風苑で!

庭園レストラン **松風苑**

碧南市善明町2-20
TEL 0566-41-0472

10~100名様各部屋有り

無料送迎バス(26人乗り) 10名様以上コース料理ご予約の場合無料

ホームページ 碧南松風苑

—安心をお手伝い—

文十葬祭センター

365日 24時間受付 あんしんダイヤル

☎ 0120-565-542

西尾中央斎場・矢田斎場・幡豆斎場・碧南斎場・六ツ美斎場
2013年12月 安城斎場オープン

http://www.bun10.com 株式会社クロト

西三河に9店舗 えびせんべい専門店

ご法要・仏壇のお供えに

手塚 工房 **えびせん家族**

お問合せ先: スギ製菓株式会社
直販本部 TEL0566-42-6112

駿河・遠江・伊豆の中心道場 静岡市静岡別院を訪ねる

コンクリートの要塞を思わせる本堂は、登壇遺跡で有名な弥生時代の建築手法を模したものである。

戦争を含め二度の火災を経て、一九六七(昭和四二)年に再建され、一九八五(昭和60)年には門徒会館も完成した。以来、県下の中心道場としての役割を担っている。殿上人の下、別院創建の経緯や現在の状況等について、按察輪番(当時)・水谷別座同師に話を伺った。

東本願寺は、一六〇二(慶長7)年、第12世教如上人の時に、徳川家康から烏丸七条の現在の地に寺地の寄進を受けて本願寺から分派した。その後、二六五年(徳川幕府が終焉を迎えて、15代将軍慶喜以下多くの家臣は江戸を去り駿河に移住した。時は明治元年、新政府の施策である廃仏毀釈の風が吹き



静岡別院本堂

荒れる中で、第21世殿如上人は人々の願いを受けて静岡別院の創建を発令した。この別院創建に格別尽力したのが、慶喜の御ともいわれた・旧幕臣の宮原木石(春三郎)であり、本願寺と徳川家との関係を調べるために、本山に出入りするようになり、自身も次第に真宗の教えに帰依していった。

殿如上人が、宮原木石に大きな期待を寄せたことが文獻に記されている。やがて、宮原翁の篤い思いが実を結び、一八七一(明治4)年に静岡市上石町の明泉寺の土地・建物が本山に献納され、ここに別院としての遷座法要が厳修された。後年になり、遠江・伊豆も崇敬区域となり、静岡別院として今日に到っている。

この間に二度に亘る大火で焼失したが、関係者の復讐努力により一九六七(昭和42)年に現本堂が再建された。一九九〇(平成2)年には創建百二十年・宮原木石翁百回忌法要が勤修され、改めて先人のご苦労に敬意が顕わされたのである。

当別院は、岡崎教区の所管であるが、崇敬区域が広範囲に及ぶため、静岡5ヶ組(岡崎教区第31組・35組)の連絡協議会が母体となり、別院との連携をはかり活動している。按察輪番は「この地は温暖な土地柄のせいか、みなさん心がやさしいですね。私もすぐに溶け込むことができました。また、地域の方々いろいろなご指導とご鞭撻をいただきました。今後とも、別院が県下における共同教化の核拠点としての機能を果たせるよう、協力をお願いしたい」と語られた。

「静岡別院創立誌」
「別院探訪」
出典

エッセイ 続・赤い羽根の青い鳥

「名をなのれつ！」

「青い鳥」の二人は、なぜ「チルチル」「ミチル」という名前なんだろう...
名前とは不思議なものだ。目の前にいる人の名前がわからず、何となく不安を感じながらその人に接していったのに、名前を知った途端に気持ちが悪く落ち着くということがある。名前がわかっただけで、人間性までわかった訳ではないのに...
インターネットの世界では、名前をのらない「匿名性」が一つの特徴になっている。匿名だからこそ自由に表示できるということもあるだろうけど、無責任な表現が目につくこともしばしばである(スママセン、このエッセイも匿名です)。そうしてみると「名のる」ということは「責任」や「自覚」というようなものを背負われることなのかも。一方、人に名前をつける場合はどうか。子どもや孫に名前をつける時は、願いや思いを込めて名づけるはされたほうは、それをプレッシャーに感じたり「なんでもこんな名前にしたんだ」と不満に思ったりすること少なからずあるようだ。でも、名づけた側の願いが純粹であれば、いつか必ずその願いは名づけられたほうにも響いてくるのでは。かくも、名前とは不思議なものである。時代劇では悪代官が主人公に必ず「何者だ!名をなのれつ!」と皆さん、帰敬式を受けて法名を授けられます。

門徒の声

聞法

「そんなことを言っとるで仏教(宗教)はあかんたわ。」友人はそう言い放った。事に感じると同時に、他方でやべりをしていた時勢が飛んで来た。私が手で払いながら「真宗はブヨやミミズまで助かるという教えた。」と言った時の反応だ。
聞法を始めた頃、「大阿彌陀經」の「諸有の人民、蟬飛・蠅動の類、阿彌陀仏の光明を見ざることをなきなり。見たる者なげん、慈心歡喜せざる者なげん。の徳所をお聞きした。ブヨやミミズが助かる、ソリやあつという事だ?冒頭の言葉ではないにしろ、私もそれに近い感情を持った。

第6回 御坊俳壇・川柳

一年に一度は赤羽別院へ

寺と俳句(順不同)
刻み葉 結ぶ近道 木の実落る
橋田の 祀に舞れる 夕雲
新米の 香も添えて 御佛供飯
陽を呼びて ほのと紅さす 青木の葉
何処やらに 木魚の音す 十三夜
歸雲 子等の声とぶ ポール飛ぶ
敬老日 伊勢の神鳥 指呼しせり
赤羽に ぎんなん落る 音を聞く
胸を打つ 法師の説法 秋御堂

川柳(順不同)
ぎんなんを 榎家に配る 銀杏寺
要介護 その節妻の 太い腕
猫犬の 季節となりし 今朝の冬

選者 三浦 貞業氏他

演島 君江
鎌田 晴枝
吉見 松葉
石川 松葉
熊田美和子
蓮沼たけし
高瀬あけみ
鈴木 隆子
大沢 美忠
新家ゆり子

御門首お手植の菩提樹は今

平成22年10月17日、赤羽別院が七十四年ぶりに御親修により厳修した、宗祖親鸞上人七百五十御遠慮お持ち受け法要を記念して「菩提樹」一本が植栽されました。
真宗大谷派第二十五代・大谷暢顯門首が、同伴された妙子夫人及び浅野輪番(当時)を伴い、自らスコップを手に植樹されたものであります。
この菩提樹は、三年を経過した今日、庫裡の前で健やかに成長を続けております。

帰敬式を 受式しましょう

婦敬式(おかみそり)は、生前に二文字の法名をいたたき、お釈迦さまの弟子として、仏の教えに生きることを証す真宗の儀式であります。
赤羽別院では、本山より鍵役をお招きし、左記により帰敬式を実施致します。
あなたも受式しませんか!

記
一、期日 4月11日(金)
一、場所 赤羽別院 お御堂
一、冥加金 二万円
詳細については、赤羽別院またはお手次の寺院にお尋ね下さい。

お寺の掲示板

物をつくるには
心を以てし
法をつくるには
身を以てす
(金手大乗師)
第10組・明泉寺

1月13日(日)	第8組 安楽寺 伊奈 祐師
1月28日(火)	第9組 専念寺 伊津 淳師
2月13日(木)	同 了尊寺 大沢 尊師
2月28日(金)	同 妙隆寺 大沢 康照師
3月13日(木)	第10組 榮安寺 藤井 明敬師
3月28日(金)	同 番慶寺 鈴木 士平師

赤羽御坊新聞懇志

・妙専寺同行中様
・専興寺様
・専興寺門徒 渡邊 富子様
貴重なご懇志を有難うございました。

編集室

本紙第36号4頁「高須邦治氏御逝去文中に、真宗の教えとして不適切な表現がありましたのでお詫びして訂正します。即ち、「黄泉の世界に旅立たれました」と及び「衷心よりご冥福をお祈り申し上げます」とありますが、それぞれ「逝去されました」「謹んでお悔やみ申し上げます」と改めます。
お読みになった方から「真宗では、亡くなられた方への手向けの言葉は、素直に「寂しい」「ありがたう」で良いのではないか」という意見が寄せられました。一方、今日でもこのような言葉や表現が一人歩きしているのも事実であり、このこと自体「真宗の教えが十分に伝わっていないこと」の証として、大いに反省すべきことと考えるべきでしょう。
愛情の反対は無関心という言葉があります。この件では、多くのご意見を頂きお読み頂いている証であり、これを機縁として、より多くのことを学ぶことができれば幸いです。